



学習室で女性パイロットの一人から飛行機の操縦などについて話を聞く子どもたち。



大きな機体を目の前にし、思わず歓声を上げる子どもたち。

「周りの人に感謝する、仲間をつくり友達をつくる、集団行動を大切にする」の3つを守ることを出発前に約束し、子どもたちはツアーにのぞんだ。



## 震災を乗り越える力を見つけよう ～みやぎの子どもたちに、「生きる力」を～

8月4～6日、「みやぎの子どもたち『生きる力(思い出づくり)』体験学習」小学生のコース※に140人の子どもたちが参加しました。これは、みやぎ生協が取り組む、県内被災地域の子どもたちへの支援企画です。小学生のコースでは、東京ディズニーランドを楽しみ、羽田空港にあるANA（全日本空輸）機体メンテナンスセンター（整備場）を見学しました。同コースは8月中に4日程生まれ、総計572人の児童が参加しました。 ※中学生コースは、北海道にて別プログラムが行なわれました。

### 震災を乗り越える力をつけてほしい

この企画は、みやぎ生協学校部によって提案され、実施が決まったものです。この体験学習の団長を務める、みやぎ生協学校部の小野英男さんは、「震災以来1年4カ月が過ぎました。私どもみやぎ生協学校部は昨年度、被災した子どもたちに学校で使用する教材などの支援をしました。2012年度になり、今後はどのようなことが必要かを考えたとき、いまだに精神的ストレスを抱えている子どもたちは少なく、心のケアを重点的に行なっていく必要があるだろうという結論になりました。今年度は子どもたちに夢や希望を与えて、『よし頑張ろう、さらに頑

張って、みんなで乗り越えていこう』という気持ちになる支援をしよう、と今回の企画を組み立てたのです」と話します。

実施が決まり、教育委員会を通じて宮城県内に案内をしたところ、1万6,000人を超える応募がありました。費用は宮城県の生協組合員と全国の生協からの支援で賄われ、参加費は無料です。

### プロの話に目をきらきらさせて

体験学習は、遊びや見学といった「楽しさ」だけでなく、専門的な職場で働いている人々の苦労や小さい頃の夢を学ぶことで、「生きる力の糧づくり」となるように組み立てられました。

「一度に140人が見学するというの

は厳しい状況でしたが、ANAさんには企画の主旨をご理解いただき、特別に許可をいただきました」（小野さん）

ANA機体メンテナンスセンターで子どもたちは、学習室での学習や整備工場の見学を行ない、積極的にパイロットやキャビン・アテンダントに質問をしました。

「どうして難しい操縦士になれたのですか」と聞かれたパイロットが「子どもの頃から操縦士になりたいと夢を持ち続けたからです」という答えに、質問した子どもは大きくうなずいていました。キャビン・アテンダントへは、「何歳になったら、辞めさせられるんですか」などといった質問も飛び出し、会場は爆笑に包まれました。ちなみに、答えは、「定年まで働けますよ」でした。

参加者の櫻井翔輝くんは、「重い鞆を持つパイロットは筋肉があって操縦もできるので、器用で力強いと思いました。整備士の話を聞いて、飛ぶためにいろんな工夫があってすごいと思いました。ディズニーランドは楽しく、整備場見学は勉強になったので来てよかったです」と笑顔で帰路につきました。